

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0873700488
法人名	株式会社 いっしん
事業所名	グループホーム いっしん館 玉造
所在地 (電話番号)	茨城県行方市玉造甲476-1 (電話)0299-35-6201

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年8月20日	評価確定日	平成20年1月16日

## 【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤 2人, 常勤換算 15人

## (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	20,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有(但し入居2年目から)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

## (4)利用者の概要

利用者人数	18名	男性	7名	女性	11名
要介護1	6名	要介護2	3名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 81歳	最低	66歳	最高	92歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	しほう医院
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路から少し離れた、田畑に囲まれて建てられた緑の多いホームである。保健センターと隣接しショッピングセンターにも近いため、利用者が外出する機会が多い。管理者はケアサービスの向上にとっても熱心で、その思いは職員にも確実に伝わっている。利用者はそのような職員に見守られ、自由にのびのびと生活を送っている。ホーム内の家庭菜園では季節の野菜が作られていて、それがホームの食卓を飾っている。地域との交流にも熱心で、地元学生のボランティア活動を受け入れている。ホームの隣で咲き誇る向日葵と同様に、来訪者に元気を与えてくれるようなホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画の見直しに関して、センター方式アセスメントシートを使って利用者や家族から情報収集を積極的に行なったことで職員間での話し合いはさらに充実され、日常的に申し送り等で情報交換が円滑になった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で取り組み、その後の話し合いを通して自らの業務のふり返りの機会となった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	保険者が運営推進会議の年間テーマを設定しており、それに沿って運営推進会議を開催している。しかし、まだ始まって間もないため、現在のところは会議メンバーにホームを紹介する段階であるが、今後地域とホームの双方向の交流に期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置しているが、そこへの投函は少なく家族は職員に直接要望などを伝えてくることが多い。年1回家族アンケートを実施し、サービスの質の向上に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元中学生の職場体験を受け入れ、地域の運動会の見学に行くなど、積極的に地域に出向く姿勢が見られる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規程、基本方針、そしてホームとしての理念である「決め事十則」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の業務のふり返りや、新人職員の研修などで理念を活用している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアや地元中学生の職場体験などを多く受け入れ、地域に開かれたホームを目指している。今後は自治会への参加も検討されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の前の自己評価は、管理者含め全職員で取り組んでいる。		評価結果をケアの質の向上に活かせるよう、今後の取り組みに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市が提示した年間テーマに沿って会議を開催している。開催されて間もないこともあるが、今後に十分期待がもてる。		

茨城県 グループホームいっしん館玉造

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市町村担当との情報交換等は十分に行なっている状況ではない。	○	ホーム側から積極的に市町村へ働きかけ、連携の強化を図ることが望ましい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	月1回ホーム便りを送付し、日々の生活状況について家族へ報告している。体調の変化があったときなどは随時電話連絡を行なっている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	年1回家族アンケートを実施しているが、現在書式を変更中であるとのこと。館内には意見箱を設置して、常に家族から意見を求める姿勢があった。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	新任職員に対する研修も行なっており、着任時はベテラン職員と行動をともにして、利用者への配慮を行なっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	新任職員研修や内部研修(月2回程度)などが行なわれ、職員のスキルアップをホームや法人として支援している。		外部への研修機会も増やし、更なる職員の研鑽場面を増やしていくことが期待される。
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	ホームのすぐ近くに他法人が運営するホームがあり、散歩の際に挨拶などを行っている。	○	地域の同業者と連携を深め、ホームのサービスの向上に努めていくことが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	詳細な実態把握を行い、利用者が馴染みやすいよう配慮している。体験入居や利用体験なども随時行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とともに生活を送りながら、日常生活の喜びや楽しみを共有することを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式アセスメントシートを使い、利用者や家族から情報収集を積極的に行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	収集された情報と利用者・家族の意向を盛り込んだ、個別的な介護計画が作成されている。		介護計画の作成では、積極的に利用者にもサービス担当者会議に参加を働きかけるなど、今後期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回カンファレンスを開催し、介護計画の見直しを行なっている。状態が変化した利用者の場合、適時ミーティングを開いて介護計画の見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院等の付き添いをご家族が対応できない場合など、ホームが代行することで対応可能となっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと協力体制のある複数の医療機関が、さまざまな診療科ごとに往診を行なっている。利用者や家族が希望する医療機関への受診なども、円滑に行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	最近、ホームでの看取りを行なったとのこと。利用者や家族の意向を随時確認し、医療機関と連携をとりながらできる限り対応していききたいとの姿勢が感じられた。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に不快感を与えないような言葉かけに取り組んでいた。個人記録などの重要書類は鍵つきの書庫に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々人のペースを尊重した生活を、ホーム全体で心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い、季節感のある献立を作成している。調理には利用者のできる範囲で準備等を行なっている。ホーム内の菜園で取れた野菜が食卓を飾るなど、食事の楽しみを大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特に入浴時間を設けず、利用者の希望する時間に入浴できるようになっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれに合わせた役割を見出しており、ゴミ捨てや新聞取り、野菜作りに意欲を見せる利用者の姿があった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩を行なっている。近隣のショッピングセンターへ週2回買い物の日と称して、利用者と職員が買い物に出かける。月1回は外食会やドライブを企画している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠されていない。夜間は防犯上、施錠を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回行い、職員は緊急時の対処方法を身につけている。また、大規模災害に備え食料品の備蓄がされていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとに食事・水分摂取量を記録しているわけではないが、管理が必要な利用者に対しては摂取状況の把握がされている。		カロリーや水分の制限がある利用者には、介護計画に必要量を位置づけるなどして、栄養状態の把握に努めることが望ましい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花や写真を飾って、家庭的な雰囲気づくりを工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れている家具や調度品を持ち込んでもらい、利用者の個性がうかがえる居室となっている。		家族の協力が不可欠であるため、今後も積極的に家族へ働きかけを行なうことが期待される。